

研究区分	教員特別研究推進 地域復興
------	---------------

研究テーマ	開業助産師が考える「待つお産」のとりえ方				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	池田 美音
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	太田 尚子
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	大和田 裕美
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	池田 美音

講演題目
開業助産師が考える「待つお産」のとりえ方
研究の目的、成果及び今後の展望
研究目的 わが国では、安全性の確保を目的として出産の医療化が進む一方で、女性を中心とした豊かな妊娠・出産体験の向上が求められており、健やか親子 21（第二次）においても、妊娠・出産について満足している者の割合を高めることが目指されている。中でも、助産所で受けるケアは、病院・診療所と比べて、妊娠・分娩・産褥期のどの期間においても満足度が高いことが明らかにされている。開業助産師の助産ケアは、「待つお産」と表現されることがあるが、開業助産師が「待つお産」のことをどのようにとらえているか、「待つお産」にするために必要な助産ケアの実践知について明らかにした研究は見当たらない。本研究の目的は、開業助産師が考える「待つお産」のとりえ方、「待つお産」に関連する助産ケアの実践知を明らかにすることである。分娩を取り扱う開業助産師が考える「待つお産」のとりえ方と助産ケアの実践知を明らかにすることにより、不必要な医療介入の減少、満足な出産の提供、健やかな育児への貢献へ寄与する一資料とする。 成果および今後の展望 「待つ」という表現について、文献検討の結果、分娩における正常・異常の助産診断における表現として「待つ」を用いられていることが明らかとなった。一方で、産婦、児の予備力に負荷をかけないように注意深く見守ること、産婦の産む力と児の生まれる力を信頼すること、助産師が女性のペースを尊重し、寄り添う助産ケアとして表現されていることも明らかとなった。 本研究は、2024 年 3 月に研究倫理審査委員会にて承認されており（番号 5-44）、令和 8 年 3 月末までを研究期間として実施中の質的記述的研究である。助産師就業年数が 7 年以上、かつ経膈分娩介助件数が 100 例以上、分娩を取り扱う助産所を開業し、3 年以上経過している研究協力者を募集したところ、8 名から同意を得、現時点までに 7 名の半構造化面接を行った。7 名の語りを逐語化し、それぞれの語りから、開業助産師の「待つお産」のとりえ方、関連した実践知を意味のまとまりごとにコード化し、サブカテゴリー、カテゴリーを生成中である。開業助産師の語りから、産婦が主体的に自身の出産に取り組めるよう尊重する姿勢が「待つ」ことにつながっていることが示唆された。また、実践知として、妊娠期からの継続ケアにより信頼関係を構築し、女性の自己決定を支援していると推察された。今後はデータ収集と分析を継続し、開業助産師が考える「待つお産」について質的に明らかにし、効果的な助産実践について検討する。